

社会・文化・教育



キーワード：子ども虐待予防、子育て支援、看護職

子ども虐待の予防に向けて
—将来の親世代に対する「たたかない子育てプログラム」の開発—

看護学部 看護学科 教授
鎌田 佳奈美 KAMATA Kanami

研究の内容

背景：虐待が子どもの心身の成長発達に影響を及ぼすことは立証されている。歯止めが効かない子ども虐待の増加を受け、2020年に養育における体罰禁止が法律で明記された。今後はどのように浸透させていくかが最大の課題である。特に、子育て期にある子どもや家族に関わる機会の多い看護職は子ども虐待の早期発見のみならず、子どもや家族への支援的な関わりを通じて、虐待予防に貢献する事が可能である。また同時に、マクロレベルの視点として、叩かない子育ての啓発として、将来の親世代への働きかけも重要である。

内容：看護職のみならず、子どもにかかわる全ての専門職が子ども虐待の早期発見や予防・支援に積極的に取り組むことができるよう、虐待を受けた子どもと親への支援および、早期発見や予防のためのケアのガイドラインを作成した。さらに、現在は、“子育てにおける体罰は容認しない”という認識を広め、“子育ては社会全体で行なう”という風土を浸透させるため、将来の親世代の大学生や高校生を対象に「たたかない子育てプログラム」の開発を目指している。開発したプログラムは無作為化比較試験を用いて検証し、研究成果を社会実装することを目的としている。

主な成果：

- 「養育支援を必要としている家族へのケアのガイドライン —家族のケアに関わっている看護師の皆さんへ—」小冊子(右)
- 「入院初期の被虐待に対する看護師のケアの明確化」小児看護学会誌,15(1)
- 「子ども虐待の予防的視点に関する研究—子どもと親の言動に対する小児看護師の重視度とその影響要因」小児保健研究72(6) 他



産学連携・社会連携へのアピールポイント

医療機関の看護職のみならず、保育所、学校、子育て支援施設、放課後デイサービス等、子どもと家族に関わる専門職の皆さんへの応用できる内容なので、あらゆる支援者の学修会や研修などの実施が可能です。また、「たたかない子育て」に向けて、子育て中の養育者の皆さんや将来親世代となる大学生・高校生の皆さんを対象に実践演習も含めた啓発活動を実施していきたいと考えています。

鎌田研究室

URL：https://gyoseki.setsunan.ac.jp/html/100001164_ja.html

